



未収金目標及び具体取組内容調書

所属	平野区	担当	総務課	債権整理番号(3ケタ)	005	債権区分	非強制徴収公債権(非強公)	債権名	区庁舎目的外使用に係る使用料(食堂)
----	-----	----	-----	-------------	-----	------	---------------	-----	--------------------

1. 令和3年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況 … いずれかの記号を入力 ※修正目標 … 当年度当初に、前年度末の未収金残高の結果を踏まえて、当初目標を修正したもの

(例) 令和3年度修正目標=令和3年度当初に、令和2年度末の未収金残高の結果を踏まえて、令和3年度当初目標を修正したもの

過年度	A	現年度	A	合計(過年度+現年度)	A
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標達成、「B1」… 取組みは予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず、目標も未達、「-」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定

2. 未収金の推移(実績及び目標) … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数 ※当初目標 … 前年度中に設定する当年度の目標

(単位:千円)

	過年度分									現年度分							合計		
	前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
	ア =前年度ケ'	イ =ア-ウ (▲=増加を表す)	ウ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =エ÷ウ	ク =カ÷ア	ケ =ウ-(エ+オ)	ウ'	エ'	オ'	カ' =エ'+オ'	キ' =エ'÷ウ'	ク' =カ'÷ウ'	ケ' =ウ'- (エ'+オ')	キ" =(エ+エ') ÷(ウ+ウ')	ク" =(カ+カ') ÷(ア+ウ')	ケ" =ケ+ケ'
A 令元実績	0	0	0	0	0	0	-	-	0	144	0	0	0	0.0%	0.0%	144	0.0%	0.0%	144
B 令2実績	144	0	144	144	0	144	100.0%	100.0%	0	732	0	0	0	0.0%	0.0%	732	16.4%	16.4%	732
C 令3修正目標	732	0	732	732	0	732	100.0%	100.0%	0	0	0	0	0	-	-	0	100.0%	100.0%	0
D 令3実績	732	0	732	732	0	732	100.0%	100.0%	0	1,610	1,171	0	1,171	72.7%	72.7%	439	81.3%	81.3%	439
E 令4当初目標	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	-	-	0	-	-	0
F 令4修正目標	439	0	439	439	0	439	100.0%	100.0%	0	0	0	0	0	-	-	0	100.0%	100.0%	0
G 令5当初目標	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	-	-	0	-	-	0

3. 令和3年度決算見込における未収金実績の状況(区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数) … 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

(残高の単位:千円)

分類	回収債権									整理債権							合計	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	未収債権の件数	未収金残高
未収債権の件数										0							0	0
未収金残高										0							0	0
未収債権の件数						1				1							0	1
未収金残高						439				439							0	439

① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例:毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)  
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。  
 ③ 債務者が死亡した場合、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。  
 それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なる場合、3の表は、相続された債務額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の相続の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。  
 ※ 未収債権の進捗状況 … ① → ② → ③ ⇒ 回収債権: (④ → ⑤) 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権: (⑩ 又は ⑪ 又は ⑫ → ⑬) 又は ⑭ 又は ⑮

令和3年度決算見込における債務者数	1	人
令和3年度決算見込における未収債権の件数(過年度+現年度)	1	
令和3年度決算見込における未収金残高(過年度+現年度)	439	
上記2のD(令2実績)のケ'		

4. 令和3年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容	納付交渉を行い、未収金の一部を納付。未収金残額については保証金の充当を行った。	納付交渉を行い、令和3年度調定額の一部を納付。令和3年度分の未収金残額については、履行延期申請書の提出を受けて今後は分割納付の予定。
取組実績	令和2年度分の未収金(732千円)のうち293千円を納付。未収金残高(439千円)について保証金431千円を充当してほしい旨事業者より申し出があったことから、これを充当した。充当後差額8千円について納付済みと確認。	令和3年度調定額の一部を納付し、未収金残高は決算時点で439千円。令和3年度分の未収金残額については、履行延期申請書の提出を受けて今後は分割納付の予定。
課題	-	債務者世帯は、最低生活費程度の収入であり、可処分所得が多くない状況。また、国庫からの借入も把握しており、生活への影響を最小化しつつ確実に債権を回収する必要がある。
改善策	-	債務者から提出された履行延期申請書に基づき履行確認を行い、適宜債務者本人の生活状況を聴取しながら計画的な回収を行っていく。

5. 令和4年度の取組内容 … 「1. 令和3年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況」及び「4. 令和3年度の取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

	過年度	現年度
取組内容	-	債務者から提出された履行延期申請書に基づき履行確認を行い、適宜債務者本人の生活状況を聴取しながら計画的な回収を行っていく。